

会 議 録

1 付属機関等会議の名称

平成28年度第1回美里町在宅医療介護連携推進会議

2 開催日時 平成28年6月7日(火) 19時00分から21時00分

3 開催場所 JAみどりの本店会館

4 会議に出席した者

(1) 委員

横山眞和委員 野田清一委員 木村泰之委員 伏見祥子委員 佐々木義夫委員 尾形文克委員
小野洋美委員 東海林奈菜絵委員 佐々木宏子委員 青木正男

(2) 事務局

佐々木さとみ 高橋ひろみ 横山太一 相原浩子

(3) その他

宮城県北部保健福祉事務所 健康づくり支援班 技師 相澤裕介

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議題

事例検討

今後の予定

その他

会議の公開・非公開の別

6 非公開の理由

7 傍聴の人数

0人

8 会議資料

別紙のとおり

9 会議の概要

(1) 議題の審議結果又は今後の対応

・事例検討を行うことで、職種によって習得している知識が様々であり、それぞれの立場で利用者や患者に指導及び支援する内容が違うことが改めて共有することができた。今後、事例検討の積み重ねを行い、情報共有を図ることにした。

・今後の予定として、10月、12月、2月に会議を行うこととした。また、職種をこえた勉強会について包括で企画することにした。

(2) 詳細な意見

別紙のとおり

(別紙)

(伏見委員)

パーキンソン病の薬で2時間おきに1日7回飲まなければならない薬があるが、飲み忘れがある。本人は自分で管理できるといっており、ヘルパーが気を配っているが、ずっと見ているわけではないので、服薬の管理が課題となっている。

(横山委員)

パーキンソン病は、薬の調整によって比較的改善度が高い病気である。薬の服用管理ができれば大分違うと思う。

また、リハビリで歩行訓練を強化したほうが良いのではないか。この方の体重が2年間で20kgも増加しているところが気になる。これでは体の動きが悪くなる一方である。問題行動の記載に台所や仏壇から食べ物を持ってきて隠して食べるとあるが、食生活の改善とリハビリをすべきである。

(伏見委員)

この方は食欲旺盛で食事の量も多い。問題行動については、パーキンソン病による幻聴等？精神症状はあるが、認知症とは違う。

(尾形委員)

病院ではリハビリをぎっちり行うが、退院後、患者さんの家族構成、家のつくりや生活の状況、保険内でのサービスのやりくりなど細かい部分を考えて、患者さんがどのくらいまで生活できるかを支援している。その積み重ねと精神的な部分も含めて、患者さんの生活の質をあげていくことを考えていく。

(木村委員)

薬の飲み忘れの改善が必要と思う。旦那さんの協力はあまり得られないとのことだが、旦那さんにやんわりとお願いするとか、タイマーをセットするとか方法を考えてみてはどうか。家族の協力が得られることが一番と思う。

(小野委員)

この方は、長年サービスを上手く利用しながら症状をコントロールして、在宅で過ごすことができている。すばらしいと思う。

薬の服用については、「薬をきちんと飲むことでいいことがある。」ということを理解してもらい、ご主人の協力を得ることができるのではないかと。訪問看護で排便コントロール、リハビリを行っているが、夫のフォローも含めて、もう1回くらい訪問看護を増やせば状態が安定するのではないかと。と思う。

(別紙)

(横山委員)

医師は、病気のことには分かるが、介護や治療に関する費用については分からない。そういうことを情報もらえると良い。

(佐々木委員)

これまでの個々の関わりしかなかったものが、このように情報を共有することで、今後の関わり方、動き方が変わってくると思う。様々な分野の人達が集まることで、これまでと違った展開が望めるのではないか。

介護スタッフの若い人達は勉強したいという意識は持っているが、与えられるのを待っている人が多い。介護スタッフの人材確保、人材育成は、今後の課題であり、我々から勉強する場を作っていくことが必要だと思っている。みんなで勉強できる場として、セミナーなどでも良いと思う。職種を超えて、テーマをもって勉強会をやってみたらと思う。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成 年 月 日

委員

委員
